

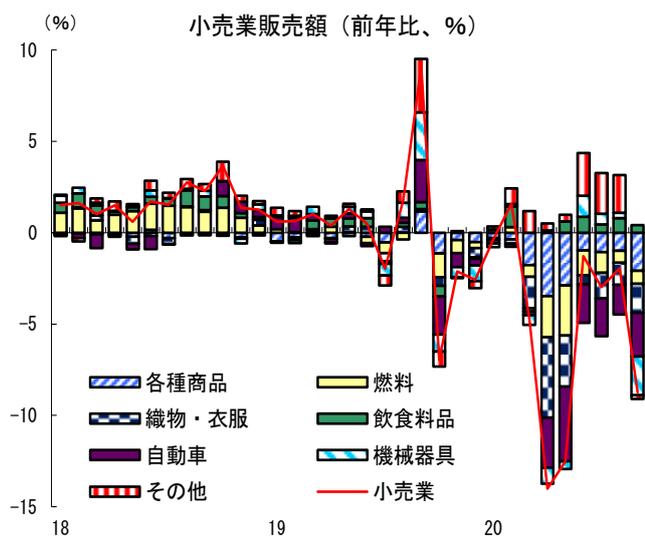
Economic Indicators

発表日: 2020年10月29日(木)

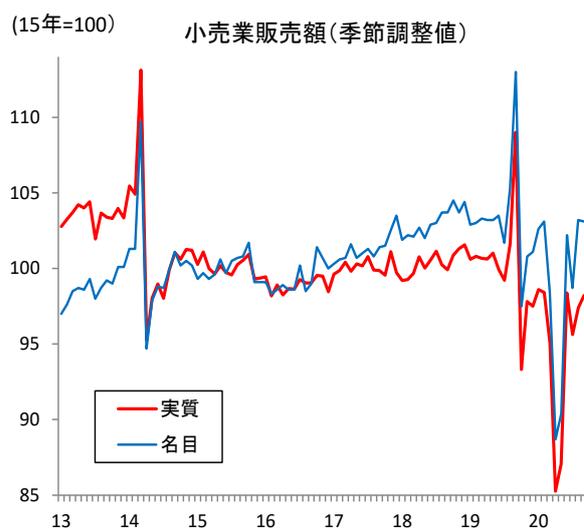
小売業販売額(2020年9月)

～7-9月期は大幅反発となるも、財消費の回復は足踏み状態～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
副主任エコノミスト 小池 理人 (TEL: 03-5221-4573)



(出所) 経済産業省「商業動態統計」



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

(注) 実質化及び実質値の季節調整は第一生命経済研究所

○7-9月期は大幅反発となるも、財消費の回復は足踏み状態

経済産業省から公表された20年9月の小売業販売額は前年比▲8.7%と、市場の事前予想である▲7.6%を下回った。前年比での減少幅は8月の▲1.9%から大きく拡大しているが、これは消費増税に伴う駆け込み需要で押し上げられた2019年9月の裏で出ていることによるものであり、季節調整済み前月比では▲0.1%と、ほぼ横ばいである。小売業販売額は、緊急事態宣言の解除を受けて6月に大きく反発したが、7月以降は足踏み状態となっている。また、7-9月期でみると前期比+8.1%とはっきり増加しているが、これは6月に急回復したことによるゲタの影響が大きい。

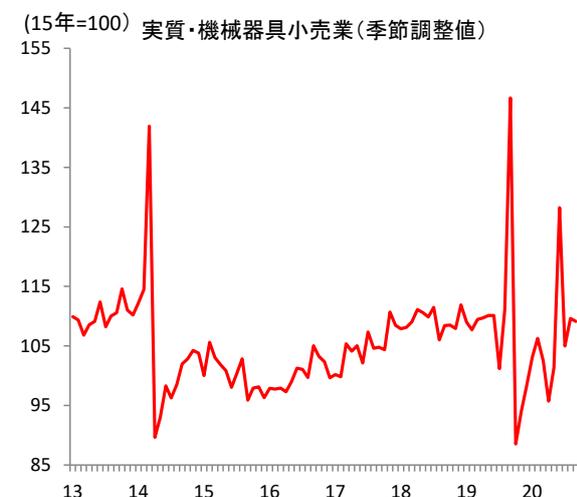
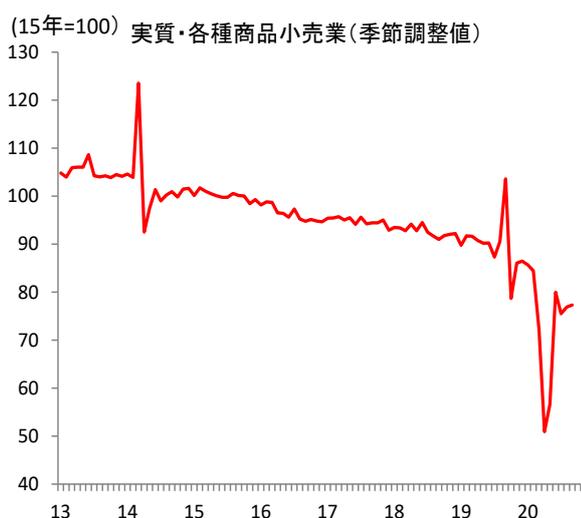
業種別(実質値、季節調整値)に7-9月をみると、各種商品小売業(前期比+22.5%)や自動車小売業(同+17.3%)、織物・衣服・身の回り品小売業(同+14.9%)が増加する一方で、機械器具小売業(同▲0.5%)や飲食料品(同▲0.3%)が減少した。機械器具小売業は特別定額給付金による押し上げ効果によって6月に大きく売上が増加した機械器具小売業だが、その後は横ばい圏で推移している。

○財消費は足踏みも、サービス主導で個人消費は緩やかな持ち直しが予想される

先行きの個人消費は、緩やかながらも持ち直しの動きが見込まれる。財消費については、引き続き足踏み状態が予想される。6月の財消費を大きく押し上げた特別定額給付金効果については剥落が見込まれ、今後一段の回復は見込み難い。一方、これまで回復が遅れていたサービス消費については、

GoToキャンペーン等の政策的な後押しを受けて、今後回復基調に復していくことが見込まれる。個人消費全体としては、サービス消費を牽引役として、緩やかな回復が続くことが見込まれる。

リスク要因としては、感染状況の悪化が挙げられる。9月の消費者態度指数が感染状況の改善を背景に+3.4ptと改善するなど、消費者心理の改善がみられているが、冬にかけての感染状況が悪化する場合、接触を伴う機会の多いサービス消費は再び手控えられることとなり、個人消費に冷や水を浴びせることになるだろう。



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

(注) 実質化及び実質値の季節調整は第一生命経済研究所

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。